

式辞

閉校式にあたり、会津美里町議会 議長 横山知世志 様を始め、多数の御来賓の皆様の御臨席を賜り、心より御礼を申し上げます。

今年度は、様々な場面において「大沼高校最後の〇〇〇」と言われてまいりましたが、その一方で大沼高等学校創立100周年の節目の年でもありました。創立100周年記念誌をひもときますと、開校から現在に至るまで、地域の方々を始めとする本当に多くの方々の本校に対する熱い思いが、脈々と受け継がれてきていることを痛感いたします。

本校は、次代の中核を担う人材の育成という地域の熱望により、大正10年に大沼郡立大沼実業補習学校として大沼郡役所内に開設されました。その後、地域や時代の要請に応じる形で、大沼農業補習学校、大沼実業公民学校、公立青年学校福島県大沼郡高田町大沼実業学校、学校組合立福島県大沼農学校と変遷を経て、昭和22年には、地域の方々の悲願であった学校設置者が県に移管され、福島県立大沼農学校となり、同年4月30日にこの地に移転しました。その際、学校敷地2853坪、校舎、体育館は高田町より県に寄付されました。そして翌年に福島県立大沼高等学校と改称し現在に至っております。また、大沼高等学校開校当時は、グラウンドがなく、グラウンドの整備は最優先の課題であり、連日関係者へ協力要請を行い、猪苗代土木事務所の協力でブルドーザーを借り受け、町在住のトラック所有者の協力で本郷町から資材を運び、職員・生徒らが整地に汗を流し、完成したという経緯があります。そして、ここにある校旗は、昭和28年度の卒業生から贈られたものです。それだけに、統合による閉校という事実の重みが、今改めて胸に押し寄せてきます。

本校では、昭和34年に制定された校訓「誠実」、「明朗」、「健康」の下、現在「個々の生き抜く力を育み、地域社会に貢献できる人材を育てる学校」となることを目指し、「コミュニケーション能力」、「健全な精神」、「学ぶ力や自ら課題を見つけ解決する力」の育成に取り組んでおり、特に、総合的な探究の時間で行っている「地域課題探究活動」では、実際に町に出て、自ら課題を発見・整理し、必要な情報を自ら収集し、仲間と協働しながら具体的な解決法を考える学習活動を行っております。このように形は変えども、創立以来、時代の変遷にともなう様々な困難を乗り越え、「地域の振興」を担ってきた精神は、現在でもしっかり受け継がれております。

本校校歌の一節に、「生まれし土地を愛さなん、育ちし国を富ましめん」とあります。これは、会津西陵高等学校の目指す生徒の将来像「郷土を愛し、活力ある地域づくりに貢献できる人物」に繋がるものです。先日行われた卒業証書授与式の卒業生代表答辞の中で、卒業生代表の※※※※さんは、「多くの先輩方が築いてきた伝統や思い出の上に私たちはいて、そして、自分たちもその伝統や思い出の一部になれることに誇らしい気持ちと同時に、「大沼高校」が終わることに寂しさも感じます。ですが、大沼高校の名前はなくなっても、これまでの100年で築いてきた伝統や、みんなの思いはなくなりません。この思いを会津西陵高校に引き継いでいくことを後輩の皆さんに託したいと思います。」と述べております。1、2年生の皆さんは、本校の諸先輩方が築きあげてきた伝統や想いを継承し、ぜひ会津西陵高等学校に繋いで欲しいと思います。私たち教職員も、その責任の重さを感じながら、次の100年に向かって、地域社会の発展に貢献する多くの若者を育て、これからも「多くの夢が翔く学舎」にしていかなければならないと、誓いを新たにしているところであります。

本校は3月末をもって、その歴史を閉じますが、これまで本校に関わった多くの方々、地域の方々、教職員、生徒の「想い」は、決して消えることはありません。その「想い」は今後も、会津西陵高等学校でその輝きを放ち続けていくものと信じております。

最後になりますが、100年の長きにわたり、本校を支え育てていただきました地域の方々、御指導、御支援をいただきました多くの方々、勤務された教職員の方々、本校に関係した全ての皆様方に、改めて深く感謝申し上げますとともに、4月に開校いたします会津西陵高等学校においても変わらぬ御支援と御協力をお願い申し上げ、式辞といたします。

令和4年3月16日

福島県立大沼高等学校長 阿部 学